



DAIKEN 地球環境ビジョン2050

“笑顔あふれる未来”のために

DAIKENグループは、2050年に向け、資源循環の推進、気候変動の緩和、自然との共生を通じて、持続可能な社会の実現をめざしていきます。



資源循環の推進

廃棄物の削減、資源の再利用

▶ P.55参照

“資源循環の推進”の取り組み事例

間伐材や製材端材等を有効活用し 木質資源のカスケード利用を推進

製材として使用できない端材等をマテリアルとして再利用することで、持続可能な資源循環の推進に貢献していきます。

Case study①

国産の未利用木材を100%使用した、マルチング*用途の木質ファイバー『Decoマルチ』を新発売
Decoマルチをマルチング材として地表面に敷き込むことで、建物のお庭や外構のデザイン性を損なうことなく雑草の発生を抑制します。

※地表面をカバーすることで日光を遮り、雑草を予防し、植物の根元を乾燥から守ること。



表面に水分を蓄えにくい構造で、表面での発芽を予防



● 種子 ● 水分



気候変動の緩和

カーボンニュートラルの実現

▶ P.56参照

“気候変動の緩和”の取り組み事例

“炭素の貯蔵庫”となる木材を活用した カーボンニュートラルに貢献する建材

大気中のCO₂を吸収し炭素として蓄えた木を製品化し、建築物などに長く使用することで、燃焼や腐敗による大気中へのCO₂排出を抑制します。また、DAIKENでは森林認証材や国産材・植林材など、適切に管理された森林から産出された木材を積極的に活用することで、資源の持続的な利用を促進し、地球温暖化防止に貢献していきます。



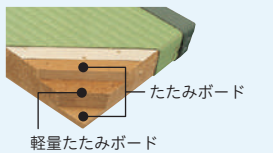
※1 インシュレーションボード、MDFを製造している事業
※2 炭素貯蔵量は、2025年度実績
林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」の計算方法に準じて算出
※3 環境省「令和5年度家庭部門のCO₂排出実態統計調査 資料編（確報値）」記載の「世帯当たり年間CO₂排出量」より換算

各製品の炭素貯蔵量



イエリアフロア スタンダード

炭素貯蔵量 約 **12** kg-CO₂
※1㎡当たり



ダイケン畳 健やかくん (健やか畳床 2000ECO)

炭素貯蔵量 約 **30** kg-CO₂
※1畳当たり



MiSEL

炭素貯蔵量 約 **181** kg-CO₂
※PLAN12 1set当たり



自然との共生

生物多様性の保全

▶ P.56参照

“自然との共生”の取り組み事例

国産木材の活用促進

日本は国土の約3分の2が森林で覆われる世界有数の森林大国です。CO₂の吸収や土砂災害防止など、さまざまな機能を果たす森林を健全に育てるため、国産木材の積極活用が求められています。

Case study①

公共建築物などの内装材に地域産材を活用

“多摩産材”の普及および利用拡大の取り組みに東京都が助成を行う「多摩産材利用開発事業」にDAIKENのWPCフロアが認定され、公共施設に採用されています。



Case study②

ホテルの床などに企業保有林の間伐材を活用

不動産開発企業様が保有する森林の間伐材を活用するプロジェクトに協力し、建設されたホテルにWPCフロアを供給しています。

